

話 題

「日本保健物理学会第49回研究発表会」 印象記

山田 椋平*¹

1. はじめに

2016年6月30日及び7月1日の2日間にかけて、床次眞司大会長（弘前大学）のもと、青森県弘前市にある弘前文化センター（第1図）において日本保健物理学会第49回研究発表会が開催された。青森県における本学会の研究発表会は、2005年に六ヶ所村の文化交流プラザスワニーで行われて以来、11年ぶり2回目であった。また、時期的には梅雨であり雨も心配されたが、天候に恵まれ、非常に過ごしやすい中での研究発表会となった。参加人数は約320名であり、茨城県水戸市にて開催された第44回研究発表会（50周年記念大会）以来の300名を超える参加者数であった。

本研究発表会では、各セッション（後述）とは別に、下記のような専門委員会や研究会の活動状況、喫緊の課



第1図 会場（弘前文化センター）

Ryohei YAMADA; Impressions of the 49th Annual Meeting of Japan Health Physics Society.

*¹ 弘前大学大学院保健学研究科放射線技術科学領域；青森県弘前市本町66-1（〒036-8564）

Department of Radiation Science, Graduate School of Health Sciences, Hirosaki University; 66-1 Honcho, Hirosaki-shi, Aomori 036-8564, Japan.

E-mail: h16gg208@hirosaki-u.ac.jp

題に関する10件の企画講演が、各座長（敬称略）のもと実施された。

- 1) 青森県の原子力安全対策行政（座長：岡村泰治）
- 2) 低線量放射線の健康リスクとその防護に関するコンセンサスの構築に向けて（座長：松尾真紀子）
- 3) 国民線量評価委員会（座長：高橋史明）
- 4) 国際対応委員会 AOARP Special Session（座長：甲斐倫明）
- 5) 福島事故現場における放射線防護の現状と課題（座長：橋本 周）
- 6) 水晶体の線量限度に関する専門研究会の活動状況（座長：横山須美）
- 7) 専門資格委員会（座長：小佐古敏荘）
- 8) 内部被ばく影響評価委員会（座長：石川徹夫）
- 9) 放射線防護標準化委員会（座長：橋本 周）
- 10) 除染目標値を議論する（座長：山西弘城）

本印象記では、各セッションの構成、企画講演の発表の概要や懇親会の様子などを若干の所感も交えて紹介したい。

2. 各セッションの構成と演題数

開会式では床次大会長による挨拶の後、論文賞、貢献賞及び学生研究優秀賞の授賞式が行われた。本年度の論文賞の受賞者は澤口拓磨氏、武田聖司氏、木村英雄氏、田中忠夫氏（（国研）日本原子力研究開発機構）であった。また、貢献賞は田村勝裕氏（（公財）原子力安全技術センター）に、学生優秀研究賞は松山嗣史氏（東邦大学、（国研）量子科学技術研究開発機構）に贈られた。その後、以下に示す10のセッションに分類された61演題の口頭発表が2つの会場で行われた（第2図）。なお、カッ



第2図 口頭発表の様子

コ内の数字は演題数である。

- 1) 環境放射線 (4)
- 2) ラドン (5)
- 3) 放射線計測 (7)
- 4) 線量評価 (7)
- 5) 放射線影響 (5)
- 6) 医療被ばく (6)
- 7) 福島原発事故関連 (14)
- 8) 防災・緊急時対応 (3)
- 9) 現場の保健物理/管理・保全 (6)
- 10) 廃棄物及びその他 (4)

また、ポスター発表は2つの会場において、2日目の午前中までの時間で行われ(第3図)、ポスター数は47演題であった。福島原発事故関連及び環境放射線(能)に関するポスターが多かったものの、医療被ばく、リスクコミュニケーション、現場における放射線管理の実践など多岐にわたるテーマの発表があった。ポスター発表においては大会実行委員、副大会長、大会長の計15名による公正で中立な選考のもと決定される優秀賞が設けられ、懇親会の場で表彰された。優秀賞を受賞された方の氏名(敬称略)と演題名は以下の通りである。

○生田美抄夫, 金山 隆, 渡部奈津子, 倉橋雅宗, 田中孝典, 西 浩幸(鳥根県原子力環境センター): ホットスポット測定が可能となるGeカーボンシステムの開発

その他、先述した各専門委員会や研究会による企画講演や特別セッション(診断参考レベルの紹介, 医学物理と医学物理士)が行われた。



第3図 ポスター発表の様子

3. 各専門委員会や研究会による企画講演

1日目の午前中から閉会式の直前まで、ホールにて各専門委員会や研究会による企画講演が行われた(第4図)。筆者は自身の口頭発表前後以外の時間は、大会事務局のカメラマンとして奔走していたので、詳細に内容を聞いたわけではないが、各企画講演の概要を若干の所感を交えて紹介したい。

「青森県の原子力安全対策行政」では、青森県内、とくに下北半島地域で進められている原子力関連プロジェクトにおける防災対策、環境放射線モニタリングの概要及びその対象である原子力施設の現在の状況について紹介があった。特に、防災対策の概要の紹介においては、筆者の研究内容と関連しており、政府が定めた原子力災害対策指針を青森県ではどのように反映させているのかという点が非常に勉強になった。

「低線量放射線の健康リスクとその防護に関するコンセンサスの構築に向けて」では、(一社)日本保健物理学会、(一社)日本リスク研究学会、(一社)放射線影響学会及び(公社)日本放射線技術学会の4学会から各1名ずつがファシリテータ或いはパネリストとして登壇し議論された。講演の概要としては、福島原発事故後の専門家と一般社会との認識の隔たりについて議論が行われた。

「国民線量評価委員会」では、(公財)原子力安全研究協会が2011年に公開した「新版生活環境放射線(国民線量の算定)」を参考として、医療放射線を除いて国民線量への寄与が大きいとされる大地放射線、宇宙放射線、空気中ラドン及び食品を検討対象線源とするなどの委員会の活動状況が報告された。質疑応答の時間では、線量評価の検討方法などに関して活発な議論が繰り広げられた。



第4図 企画講演の様子

「国際対応委員会 (AOARP Special Session)」では、AOARP (アジア・オセアニア放射線防護協議会) の特別セッションとして、座長の甲斐倫明学会長のもと、Jim HONDROS 氏 (オーストラリア)、Yong Jae KIM 氏 (韓国)、高橋史明氏 (日本) の3者が、各国の自然や医療被ばくによる外部ないし内部線量に関する講演及び議論を行った。各国で被ばくの原因の割合が大きく異なっており、大変勉強になった。また、本セッションの最後には Jim HONDROS 氏から AOCRP-5 の宣伝映像が上映され、AOCRP-5 への積極的な参加が呼びかけられた。

「福島事故現場における放射線防護の現状と課題」では、日本保健物理学会がこれまでに提言した放射線防護方策のフォローアップ状況が報告され、リスクコミュニケーションの専門家などを交えて議論が行われた。質疑応答の時間では、マスコミ関係者からも発言があり活発な議論が行われた。

「水晶体の線量限度に関する専門研究会の活動状況」では、2011年の国際放射線防護委員会 (ICRP) から示された新しい水晶体等価線量限度に対応するべく設立された本専門研究会の活動状況が報告された。水晶体の線量限度に関しては、国内でも関心が高まってきているようであり、活発な議論が行われた。

「専門資格委員会」では、医学物理士などの資格取得支援、関連学会及び機構等との連携について報告された。また、本研究発表会において特別セッションとして医学物理士を招聘し、医学物理業務に関して講演いただくことが紹介された。筆者の在学する弘前大学からもこれを目的に参加する学生がおり、重要な取り組みであると感じた。

「内部被ばく影響評価委員会」では、多くの国民の関

心事となっている内部被ばくの評価や影響に関する知見のレビューが行われ、内部被ばく評価の現状、線量評価方法、線量計算における不確かさ及び健康リスクと線量の関係について、各委員から報告があった。同委員会の発表は、テレビ報道関係者による取材も行われ、注目度の高さがうかがえた。

「放射線防護標準化委員会」では、ICRP2007年勧告を受けて国の放射線審議会基本部会が示した課題に応えるべく設立された同委員会が現在検討中である2つのガイドライン (女性放射線業務従事者の妊娠期間中の線量管理方法、放射線緊急事態後の現存被ばく状況における放射線廃棄物の管理に関する放射線防護) の解説が行われた。

「除染目標値を議論する」では、若手研究会に所属する研究者から除染目標値の在り方に関する講演が行われた。本講演では、現在の除染目標値である年1 mSvを5 mSvにした場合のメリットとデメリット及び住民に対する説明の注意点についての議論の結果の紹介が行われ、会場からもコメントがあるなど大変活発な講演であった。

本研究発表会に初めて参加した筆者は、多くの専門委員会や研究会がそれぞれ重要な課題について取り組まれていることを実感し、今後の自身の研究を進めていく上で有意義な経験となった。

4. 懇 親 会

筆者が大変楽しみにしていた懇親会が、1日目の夜にホテルニューキャッスルで行われた。事前の同学会のNewsletterでもあったように、全国チャンピオンらによる津軽三味線の大合奏 (第5図) や、青森の銘酒である



第5図 全国チャンピオンらによる津軽三味線の大合奏



第6図 青森の銘酒の試飲コーナー



第7図 放射線影響協会功労賞を受賞された下道國氏（藤田保健衛生大学大学院客員教授）と2016年～2024年のIRPA理事となられた吉田浩子氏（東北大学）

豊盃、田酒などの試飲コーナー（第6図）があり盛大に行われた。また、津軽三味線は圧巻の演奏であり、生演奏を聴くのは初めてであったため、とても感動した。

懇親会の中頃には、ポスター優秀賞の表彰、放射線影響協会功労賞を受賞された下道國氏（藤田保健衛生大学大学院客員教授）のお祝いとスピーチ、2016年～2024年のIRPA理事となられた吉田浩子氏（東北大学）の就任記念スピーチが行われ（第7図）、懇親会の最後

には記念撮影が行われた。

5. 最 後 に

初めて参加した日本保健物理学会研究発表会は、冒頭でも触れた通り300名を超える参加者となり非常に盛大な研究発表会であった。自分自身としても、初めての口頭発表、大会事務局のカメラマンや、本印象記の執筆など貴重な体験をさせていただいた。とくに、口頭発表では活発な質疑を頂き、今後の研究の参考となった。この場をお借りしてお礼を申し上げたい。

来年度の第50回研究発表会は、甲斐倫明大会長のもと大分県大分市にて（一社）日本放射線安全管理学会との共同開催で行われる予定である。



山田 椋平（やまだ りょうへい）

1992年北海道出身。国立大学法人弘前大学大学院保健学研究科放射線技術科学領域博士前期課程1年。

緊急時における放射性プルーム検知モニタの開発について研究を行っている。

E-mail: h16gg208@hirosaki-u.ac.jp